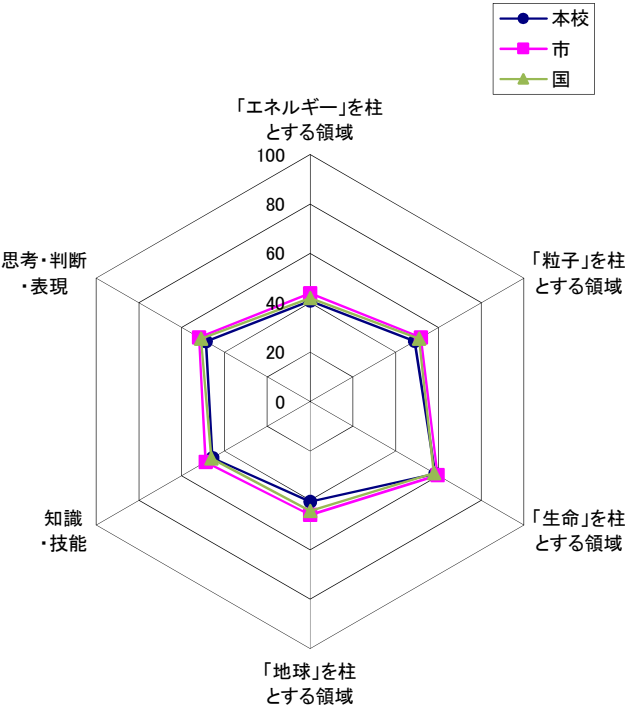


宇都宮市立雀宮中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	40.8	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	48.9	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	58.5	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	40.5	45.9	44.3
観点	知識・技能	45.6	48.8	46.1
	思考・判断・表現	48.7	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は県より3p, 国から1.1p低い。 ○「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する問題に関して、県より5.9p, 国より6.6p高い。 ●考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する問題に関して、県より6.1p, 国より6.2p低い。	・全体として無回答率が、県、国と比べて高くなっている。課題が見られるものにもあるが、考察など知識や結果をもとに答える問題に対して苦手意識を持っている生徒が多い。まずは、基礎基本を徹底して覚えることができるよう繰り返し復習する機会を多く設ける。また、言語活動を多く充実させ、他の意見を参考に自分の意見を組み立てていく機会を設ける。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は県より2.9p, 国から2.0p低い。 ○液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する問題に関して、県より1.8p, 国より2.5p高い。 ●水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する問題に関して、県より8.9p, 国より9.9p低い。	・この問題である「水素を燃料として使う仕組みの例」において、粒子の保存性の視点から水の質量は変化しないことを分析して解釈できていない生徒が多い。実験や現象だけでなく、モデル図を自分で考えて書くなど、粒子として捉えられるよう支援していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は県より1.1p, 国から0.6p高い。 ○生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断するという問題に関して、県より4.2p国より8.6p高い。 ●アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する問題に関して、県より3.1p, 国より2.4p低い。	・暗記の部分が多い単元となっているので、暗記の仕方、覚え方の工夫について指導していく。 ・知識が定着するよう繰り返し何度も指導していく。 ・また、言語活動を多く充実させ、他の意見を参考に自分の意見を組み立てていく機会を設ける。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は県より5.4p, 国から3.8p低い。 ○陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する問題に関して、県より1.0p国より0.1p高い。 ●観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する問題に関して、県より8.5p国より8.3p低い。	・単元学習時にこだわらず、年間通して季節ごとに天気学習を取り入れ、身近な問題としてとらえるよう指導していく。 ・天気図の読み取りが苦手な生徒が多いので、繰り返し練習していくよう指導していく。 ・暗記の部分が多い単元となっているので、暗記の仕方、覚え方の工夫について指導していく。